

みなとみらい線

車両留置場計画について

横浜高速鉄道株式会社



計画のあらまし

車両留置場は鉄道の運行に使用する車両を夜間等に留め置く施設です。

現在、当社では相互直通先の他社の車庫の一部を借地し、みなとみらい線の車両を留置しています。今般、この借地契約の関係で代替の車両留置場を確保する必要が生じました。

本計画は、新たな車両留置場を自社線内に整備するものです。本計画で整備する車両留置場は車両を留置するだけでなく、引き上げ線としても活用することができ、定時運行の確保や運行トラブル時の早期ダイヤ回復など、お客さまへのサービスレベルを高めることも可能となります。

計画概要

項目	概要
区間	神奈川県横浜市中区元町一丁目～新山下二丁目
延長	約589m
構造形式	地下式（トンネル構造）
留置本数	10両編成 × 4編成

平面図、断面図

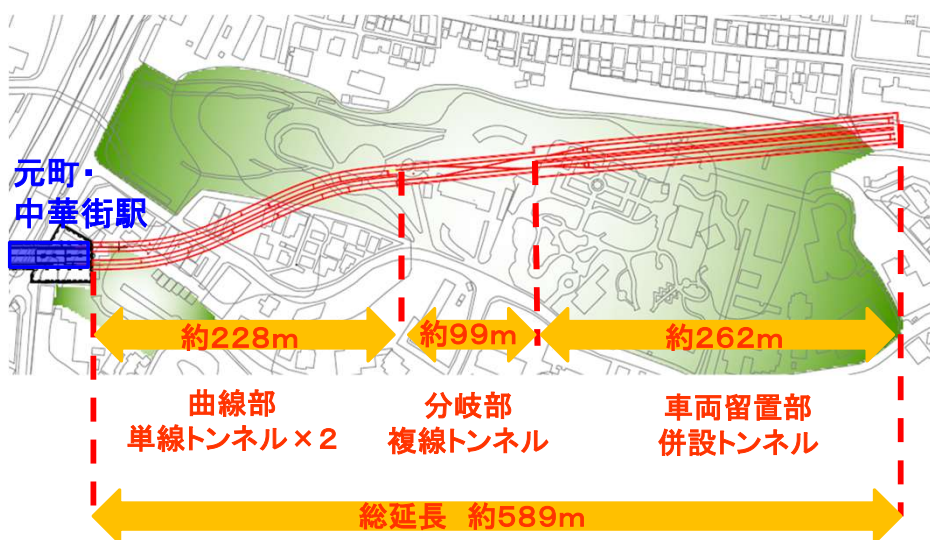
本計画は、元町・中華街駅の
終点側の地下に、トンネル形式の
車両留置場を整備するものです。

計画にあたっては、極力公共用
地の地下を活用することを重視し
ました。

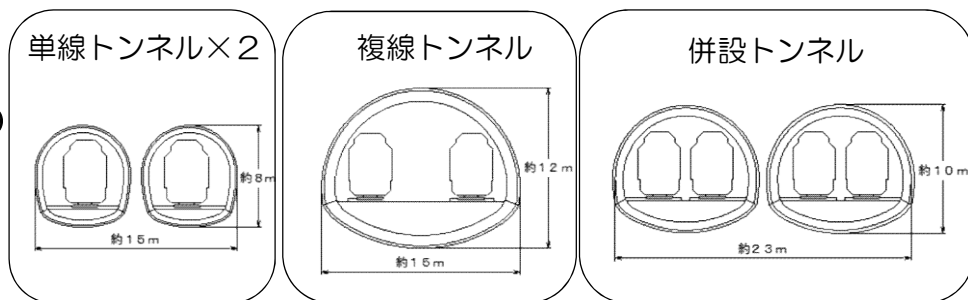
計画線形は元町・中華街駅の先
で、港の見える丘公園側へカーブ
し、大部分が公園敷地内の地下と
なる計画です。

本計画は以下の3タイプのトン
ネルで構成されています。

- ・ 曲線部 （単線トンネル×2）
- ・ 分岐部 （複線トンネル）
- ・ 車両留置部（併設トンネル）

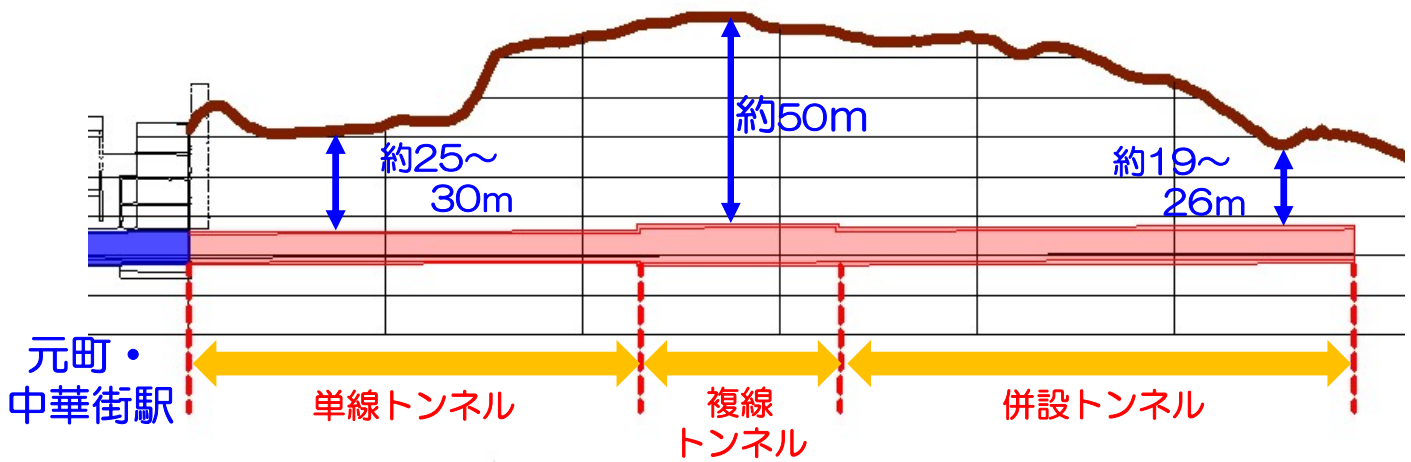


※国土地理院 地理院地図データに加筆



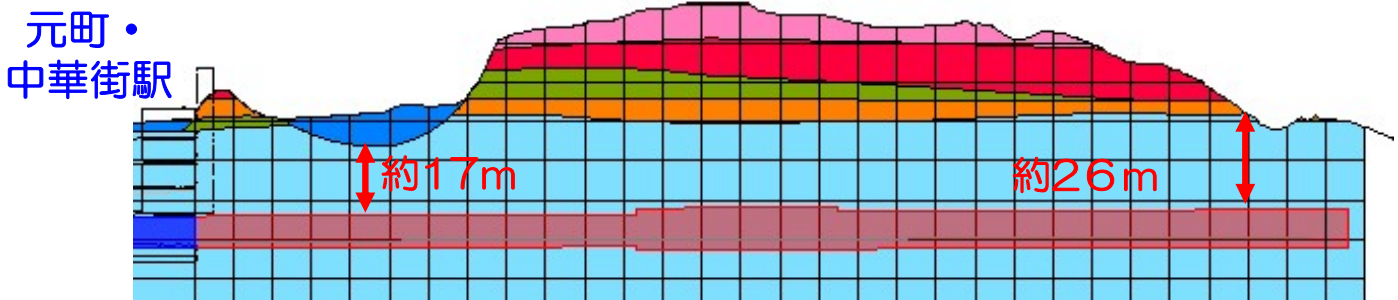
曲線部は約228、分岐部は約99m、車両留置部は約262mで総延長約589mの計画です。

縦断面図



赤で着色されている部分が車両留置場のトンネル計画位置です。また、茶色の線で表されているのが、地表面の位置です。青い矢印は、トンネル上端から地表面までの概ねの距離を示しており、駅近傍の住宅地付近で約25m～30m、港の見える丘公園付近で約50m、トンネル終端部で約19～26mとなっています。

地質縦断面図



凡例

	更新世 ローム層①		更新世 粘性土層		完新世 粘性土層、砂質土層、砂礫層
	更新世 ローム層②		更新世 礫質土層		上総層群 (岩盤) (砂質泥岩、砂質泥岩・砂岩互層、凝灰岩)

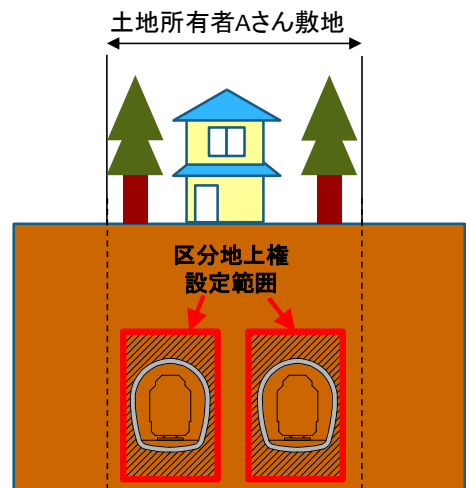
ボーリング調査から得られたデータを基に作成した地質縦断面図です。図の大半を占めている水色の部分は、上総層群と呼ばれる約360万年前から数十万年前に海で堆積した砂や泥などの堆積物が固結してできた岩盤です。

トンネル計画位置は全範囲に渡り、その岩盤層のなかに位置します。トンネル上端から岩盤上端までは約17m～26mとなっています。

区分地上権の考え方

曲線部においては、民有地の地下を通過することとなるため、区分地上権という権利を設定し、金銭補償させていただきます。

設定させて頂く範囲のイメージは右図のように、設置する構造物の上下左右に一定の余裕幅を設けた範囲です。



工事着手までの手続き

平成30年度

計画についての説明会

測量・調査・設計など



平成31年度以降

関係地権者様等への説明

区分地上権の設定



工事についての説明会



工事着手

連絡先

■ 横浜高速鉄道株式会社 プロジェクト推進室・・・045-319-4056

メモ欄

※本資料に掲載の各図は現段階のイメージであり今後の検討により変更することがあります。

2020年 4月10日 改訂

横浜高速鉄道株式会社